

# 学域学類制の歩み15年の軌跡

～ 金沢大学における教育改革の取組 ～

金沢大学 理事（教育・高大院接続・大学院改革・情報担当）  
森本章治

## 目次

イントロダクション – 金沢大学の歴史的歩みと金沢大学憲章

0. 現在の金沢大学

1. 学域学類制の構築 2008年～

- (1) 学域学類制の目的
- (2) 学域・学類と研究域・系の基本的スキーム
- (3) 新学類の創設
- (4) 新たな教育システム
- (5) 教育・研究活動を支える体制

2. 学域学類制の成果と課題

- (1) 教育面における成果と課題
- (2) 新学類の成果
- (3) 教育・研究活動を支える体制の成果と課題

3. 学域学類の再編 2018年～

4. 新学域・新学類の設置 2021年～

5. 文理融合教育とSTEAM教育の全学展開へ 2021年～

# イントロダクション

## 金沢大学の歴史的歩み

- 戦前～国立学校設置法公布 様々な前身校の存在  
前身校：第四高等学校  
石川師範学校，石川青年師範学校，金沢高等師範学校  
金沢医科大学，金沢工業専門学校など
- 1949年 5月31日 国立学校設置法公布により (新制)金沢大学設置  
(法文・教育・理・医・薬・工学部の6学部)  
→ 人文系・自然科学系・医系を兼ね備えた  
「総合大学」として発足
- 2004年 国立大学法人金沢大学に移行 (国立大学法人化)
- 2008年 これまでの学部学科制 (8学部) を  
学域学類制 (3学域16学類) に改組
- 2016年 国際基幹教育院を設置して、共通教育科目を一新
- 2018年 理工学域を改組し、3学域17学類に再編
- 2021年 融合学域を設置し、4学域18学類に再編
- 2022/2023年 4学域20学類に再編



3

# イントロダクション

## 金沢大学憲章 (2004年4月1日制定)・・・本学が拠って立つ理念と目標の明示

(前文から)

(前略) 前身校の歴史を引き継ぎ1949年に設立された金沢大学は、戦後の激動の時代を歩み、我が国と世界の発展に一定の役割を果たしてきたが、国立大学法人となるこの機会に、  
**「社会のための大学」**とは何であるかを改めて問い質さねばならない。

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、**「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」**の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定する。

金沢大学が、前身校から受け継がれる歴史の上に立脚し、  
**「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」**として  
幅広い社会からの要請に応え続けていくために、  
**自主的・主体的に行い続けてきた「大学改革」の  
一つの結実が、「学域学類制」である。**



2

4

# 0. 現在の金沢大学

(2023年11月27日現在)

<b>淵源</b> <b>1862</b> 年 加賀藩彦三種痘所	<b>学生数</b> (R5.5.1 現在) <b>10,331</b> 人	<b>キャンパス面積</b> 約 <b>257</b> 万㎡ (校舎等敷地面積：国立大 2位)	<b>教育組織</b> <b>4</b> 学域 <b>7</b> 研究科
<b>外国人学生数</b> (R4) <b>1,055</b> 人	<b>附属病院病床数</b> <b>830</b> 床	<b>科研費採択件数</b> (R4) <b>1,018</b> 件 (一人あたり採択件数：国立大 3位)	<b>融合学域</b> <b>人間社会学域</b> <b>理工学域</b> <b>医薬保健学域</b> <b>大学院</b>
[Nature Index Annual Tables 2023] (R5.6.15 発表) Health Science 分野において国立大 <b>7</b> 位	日本経済新聞・日経HR 「人事が見る大学イメージランキング」 (R5.6) 全国総合ランキング <b>12</b> 位	<b>研究所・センター</b> 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI) 共同利用・共同研究拠点 など <b>13</b> か所	

本学の規模と範囲を地域の皆様と活用し、社会貢献を推進します  
**地域に愛され、世界に輝く大学へ**

# 0. 現在の金沢大学 ~教育・研究組織 2023年4月1日現在

教育組織		研究(教員)組織	
<b>大学院</b> <b>研究科</b> <b>人間社会環境研究科</b> 博士前期課程 ・人文学専攻 ・経済学専攻 ・地域創造学専攻 ・国際学専攻 博士後期課程 ・人間社会環境学専攻 <b>法学研究科</b> 修士課程 ・法学・政治学専攻 専門職学位課程 ・法務専攻 <b>教職実践研究科</b> 専門職学位課程 ・教職実践高度化専攻 <b>自然科学研究科</b> 博士前期課程 ・数物科学専攻 ・物質化学専攻 ・機械科学専攻 ・電子情報科学専攻 ・環境デザイン学専攻 ・自然システム学専攻 博士後期課程 ・数物科学専攻 ・物質化学専攻 ・機械科学専攻 ・電子情報科学専攻 ・環境デザイン学専攻 ・自然システム学専攻 <b>医薬保健学総合研究科</b> 修士課程 ・医科学専攻 博士前期課程 ・創薬科学専攻 ・保健学専攻 博士後期課程 ・薬学専攻 ・創薬科学専攻 ・保健学専攻 博士課程 ・先進予防医学共同専攻 <b>先進予防医学研究科</b> 博士課程 ・先進予防医学共同専攻 <b>新学術創成研究科</b> 博士前期課程 ・融合科学共同専攻 ・ナノ生命科学専攻 博士後期課程 ・融合科学共同専攻 ・ナノ生命科学専攻	<b>学士 学域・学類</b> <b>融合学域</b> ・先導学類 ・観光デザイン学類 ・スマート創成科学類 <b>人間社会学域</b> ・人文学類 ・法学類 ・経済学類 ・学校教育学類 ・地域創造学類 ・国際学類 <b>理工学域</b> ・数物科学類 ・物質化学類 ・機械工学類 ・フロンティア工学類 ・電子情報通信学類 ・地球社会基盤学類 ・生命理工学類 <b>医薬保健学域</b> ・医学類(6年制) ・薬学類(6年制) ・医薬科学類 ・保健学類 <b>国際基幹教育院</b> ・総合教育部	<b>研究域・系</b> <b>融合研究域</b> ・融合科学系 <b>人間社会研究域</b> ・人間科学系 ・歴史言語文化学系 ・法学系 ・経済学経営学系 ・学校教育系 <b>理工研究域</b> ・数物科学系 ・物質化学系 ・機械工学系 ・フロンティア工学系 ・電子情報通信学系 ・地球社会基盤学系 ・生命理工学系 <b>医薬保健研究域</b> ・医学系 ・薬学系 ・保健学系	<b>研究所 機構</b> <b>センター 病院 等</b> がん進展制御 研究所 ナノ生命科学 研究所 ナノマテリアル研 究所 設計製造技術 研究所 高度モビリティ 研究所 新学術創成研究 機構 先端科学・社会共創 推進機構 環日本海域環境 研究センター 国際基幹教育院 附属病院



# 1. 学域学類制の構築 (1) 学域学類制の目的

具体的な取組の全体像

## 社会的背景

- ・ 少子化, 高学歴化 (大学全入時代)
- ・ 志願者の進学目的の不明確化, 学力低下
- ・ 養成人材に係る社会的ニーズの多様化
- ・ 学問分野や研究領域の多様化, 複雑化

## 当時の金沢大学の現状

- ・ 細分化された入学単位と初期設定型の専門決定システム
- ・ 伝統的学問分野に基づく教育・研究体制

## 問題点

- ① 学生 (志願者含む) の要望や現状
- ② 養成する人材の社会的要請や必要性
- ③ 多様化する学問分野や研究領域への対応

既存の制度や枠組みのままでは、これらの課題に十分に対応を取ることが難しい

学域学類制の導入によって以下の取組を実施・推進することで、

1. 研究 (教員) 組織 と 教育 (学生) 組織 に 分離
2. いずれの組織も、人文系・自然科学系・医系の3分野に大きく区分

**課題を解決するとともに、より積極的なプラス効果を期待**

**デメリットの克服とメリットの伸長**

7

# 1. 学域学類制の構築 (1) 学域学類制の目的

## ① 学生 (志願者含む) の現状や要望

多様化する学生 (志願者) のニーズに応え、かつ現状に即した適切な入学単位による選抜を行うことが必要

しかし... 学部学科制のままでは、ニーズや現実に応じた学生受け入れ単位を設定しようとしても、学部等の個別の教育理念・目的にとらわれ、抜本的な改変が困難

学域学類制を導入したことにより、**人文系・自然科学系・医系の3分野の区分の下、ニーズや現状に応じた大きな単位 (原則学類) で入学者選抜を実現**

学生の入学後の学びの志向・適性判断の変化や、学問分野の進展に応じた学際的教育に配慮した柔軟な教育体制の構築が必要

しかし... 既存の制度においては、細分化された入学単位に応じて入学時点で専門が決定され、入学後の学びの志向や適性判断の変化に対応することが困難

学部学科制のままでは、既存の学部学科間の壁が高く、学部を超えた学際的教育を提供することが困難

学域学類制を導入したことにより、**教育 (学生) 組織として必要な制度改革が進み、入学後の学びの志向や適性判断の変化に対応する経過選択制・副専攻制等の新制度の導入や、学際的教育のための新学類の創設を実現**

4

8

# 1. 学域学類制の構築 (1) 学域学類制の目的

## ② 養成する人材の社会的要請や必要性

学士課程から大学院課程まで、社会的要請や必要性に応えるための教育を提供し、かつその教育を担える教員陣を整備することが必要

しかし... 教員が学部・大学院に所属することで、教育を担当する教員陣が硬直化し、かつ学部間の壁も高いため、急激に変化し続ける社会的な要請や必要性に必ずしも十分に対応しきれない可能性がある

学域学類制を導入したことにより、教育課程とは別に教員が所属する組織が形成され、社会的要請等を踏まえた教育内容に応じた、柔軟な教員配置が実現

## ③ 多様化する学問分野や研究領域への対応

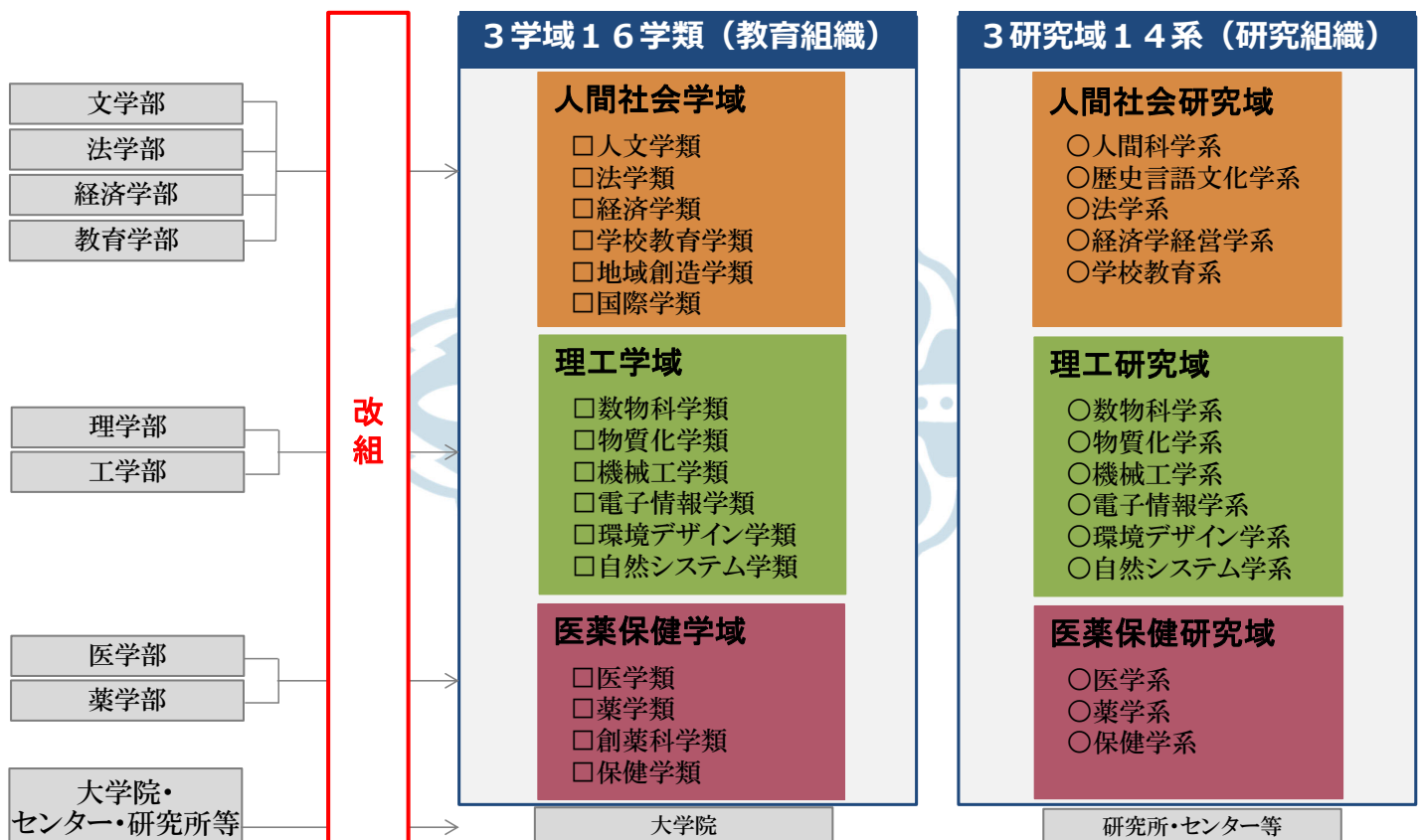
学問の進展に応じて多様化し続ける（特に学際的な）学問分野や研究領域に対して柔軟にアプローチしていくための教育・研究組織が必要

しかし... 教育研究組織が同一のままでは、教育・研究の両面において学部間の壁が高く、継続的かつ柔軟に学際融合の取組を行っていくことは困難

学域学類制を導入したことにより、研究（教員）組織と教育（学生）組織に分離でき教育・研究のそれぞれにおいて、学際融合的アプローチを担保する体制を構築

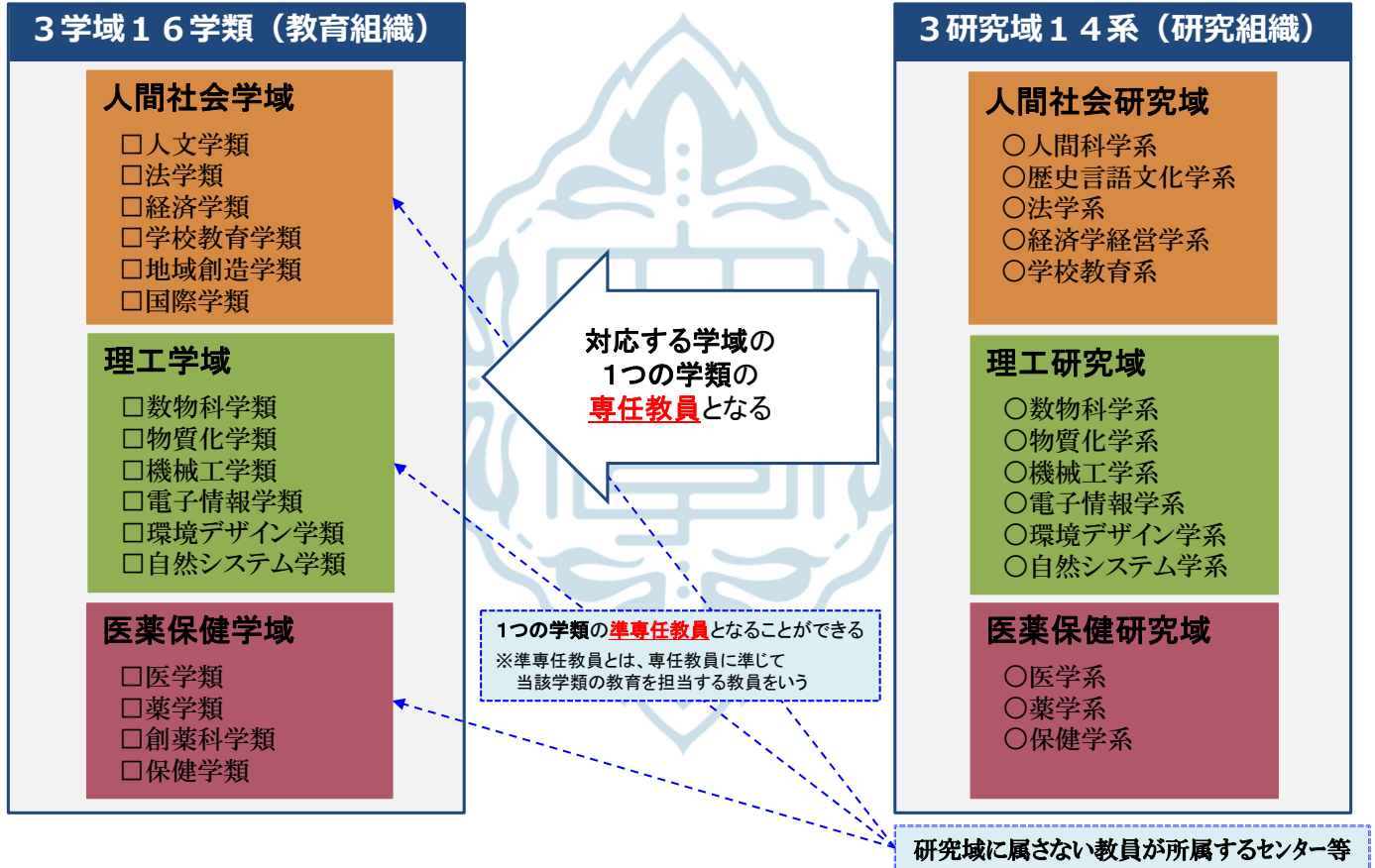
# 1. 学域学類制の構築 (2) 「学域・学類」と「研究域・系」の基本的スキーム

2017年4月1日現在



# 1. 学域学類制の構築 (2) 「学域・学類」と「研究域・系」の基本的スキーム

## 専任教員 及び 準専任教員 の基本的考え方



# 1. 学域学類制の構築 (3) 新学類の創設

— 学際的分野としての地域創造学類, 国際学類, 自然システム学類

### 人間社会学域

#### ■ 地域創造学類

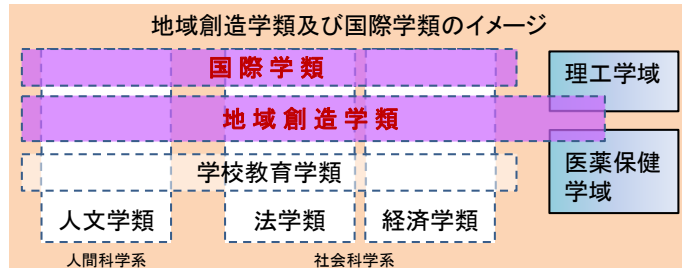
目的：地域が持つ多様な資源を活用しながら、地域が直面する課題に実践的に対応できる地域づくりのリーダーの育成  
学際的ポイント：

人文学類が主対象とする「人間」に関する学問と、法学類や経済学類が主対象とする「社会」に関する学問を横断的・総合的に学び、理工学域や医薬保健学域の領域にも触れながら、社会問題に実践的に取り組む。

#### ■ 国際学類

目的：グローバル化が進んだ21世紀において、国際社会への洞察力を持ち、異文化とのくしなやかな共生を実現できる真の国際人の育成  
学際的ポイント：

これまで文、法、経済学部などが個別に扱ってきた国際政治や国際経済、国際交流、歴史学、言語学、文化学などのテーマを、国際社会における観点から、あるいは国や地域という視点から総合的に捉える。



### 理工学域

#### ■ 自然システム学類

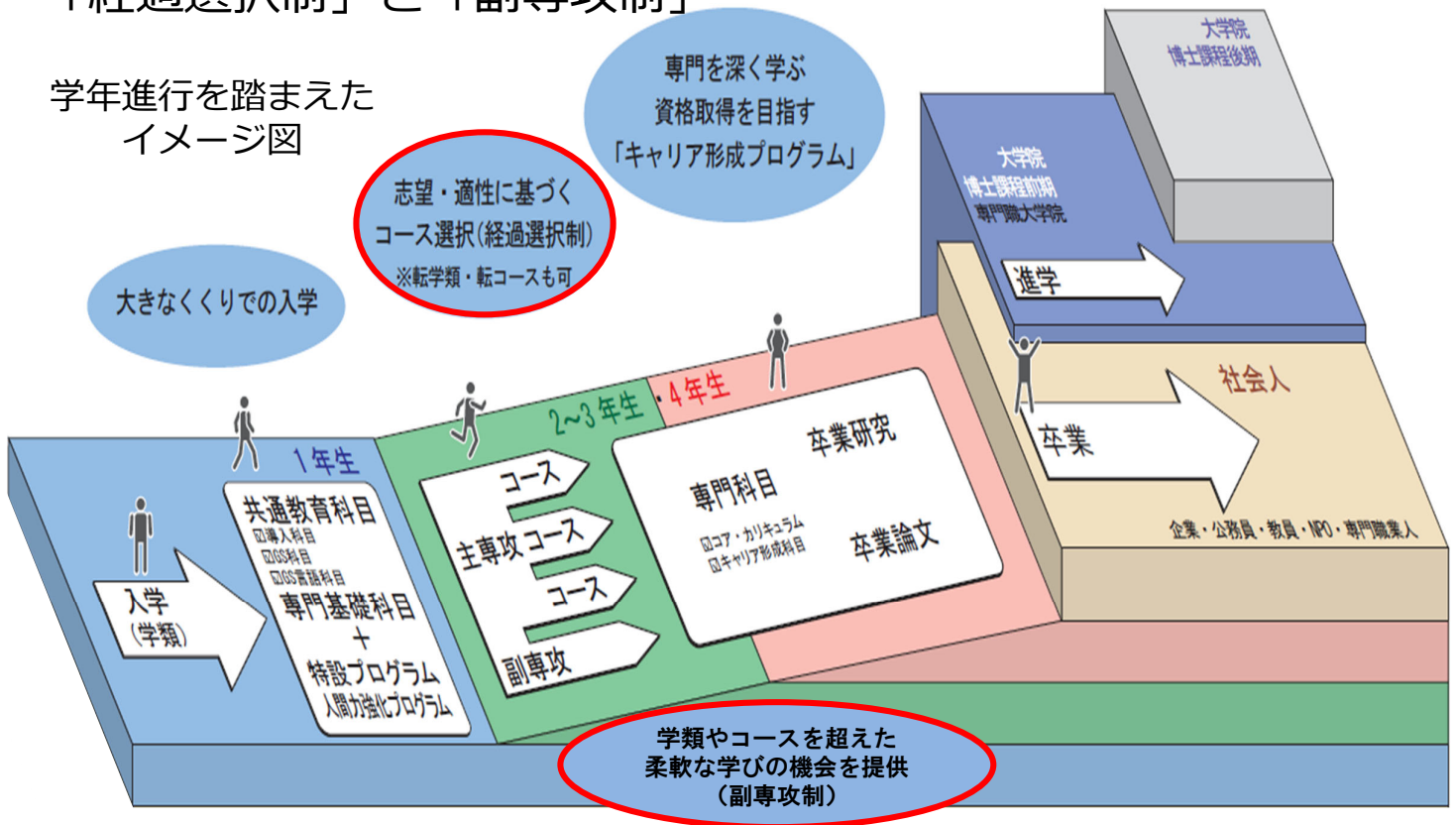
目的：生物・人間・物質・地球で形成される自然システムの探求を通じ、創造性あふれる科学者、技術者を育成  
学際的ポイント：

生物・人間・物質・地球で形成される、多様でダイナミックなシステムを「自然システム」として総合的に捉え、理学と工学が融合した新しい知識・技術を生み出すことを目指し、生物学、バイオ工学、物質工学、地球科学、環境科学の複合的視点を持ちながら学ぶ。

# 1. 学域学類制の構築 (4) 新たな教育システム

## 「経過選択制」と「副専攻制」

学年進行を踏まえた  
イメージ図



# 1. 学域学類制の構築 (4) 新たな教育システム

## 金沢大学国際基幹教育院 (2016年4月 創設)

金沢大学独自の「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした全学教育に関する企画・実施と質向上に資する手法開発、全学の国際化の基盤形成

### 共通教育コア・パッケージ

#### 金沢大学<グローバル>スタンダード

##### 自己の立ち位置を知る

科学的世界観,批判的思考力,歴史的洞察力,地政学的洞察力,規範意識

##### 自己を知り,自己を鍛える

フィロソフィー,アイデンティティ,健康増進,心身の成長,克己

##### 考え・価値観を表現する

論理的構成力,物語力,言語表現力,感情表出力,創造的想像力

##### 世界とつながる

共感・歴史観,日本文化・金沢文化理解,異文化理解,国際関係の理解,国際コミュニケーション力

##### 未来の課題に取り組む

想像力・創造力,情報分析力,総合的判断力,蓋然性,持続可能性

#### GS科目

授業内容の標準化,英語の教科書・教材作成

現代世界への歴史的アプローチ、グローバル時代の政治経済学、グローバル時代の社会学、ケーススタディによる応用倫理学、地球生物圏と人間、物理の世界、化学の世界

哲学（自我論）、パーソナリティ心理学、グローバル時代の文学、健康科学、細胞・分子生物学、エクササイズ&スポーツ実技

プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）、クリティカル・シンキング、価値と情動の認知科学、論理学から見る世界、数学的発想法、芸術と自己表現、スポーツ科学

金沢・能登と世界の地域文化、日本史・日本文化、異文化間コミュニケーション、異文化体験、国際社会とボランティア、グローバル社会と地域の課題

科学技術と科学方法論、統計学から未来を見る、情報の科学、環境学とESD、生活と社会保障、人権・ジェンダー論

※ このほか、導入科目、GS言語科目、自由履修科目、人間力強化プログラム等を実施



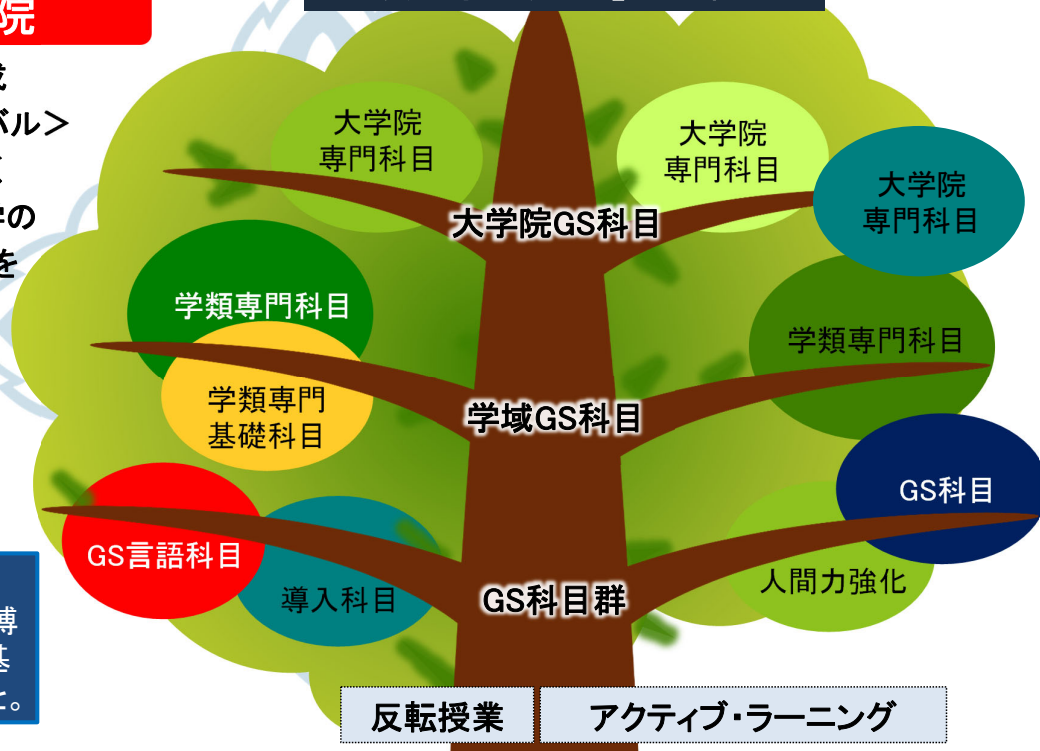
# 1. 学域学類制の構築 (4) 新たな教育システム

## 国際基幹教育院

「金沢大学ブランド」人材育成のため、金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)に基づく**基幹教育**の推進により、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的として2016年度に設立。

基幹教育とは、「学士課程、修士課程及び博士課程それぞれの教育の基盤をなす教養的教育」のこと。

## 「金沢大学ブランド」の人材

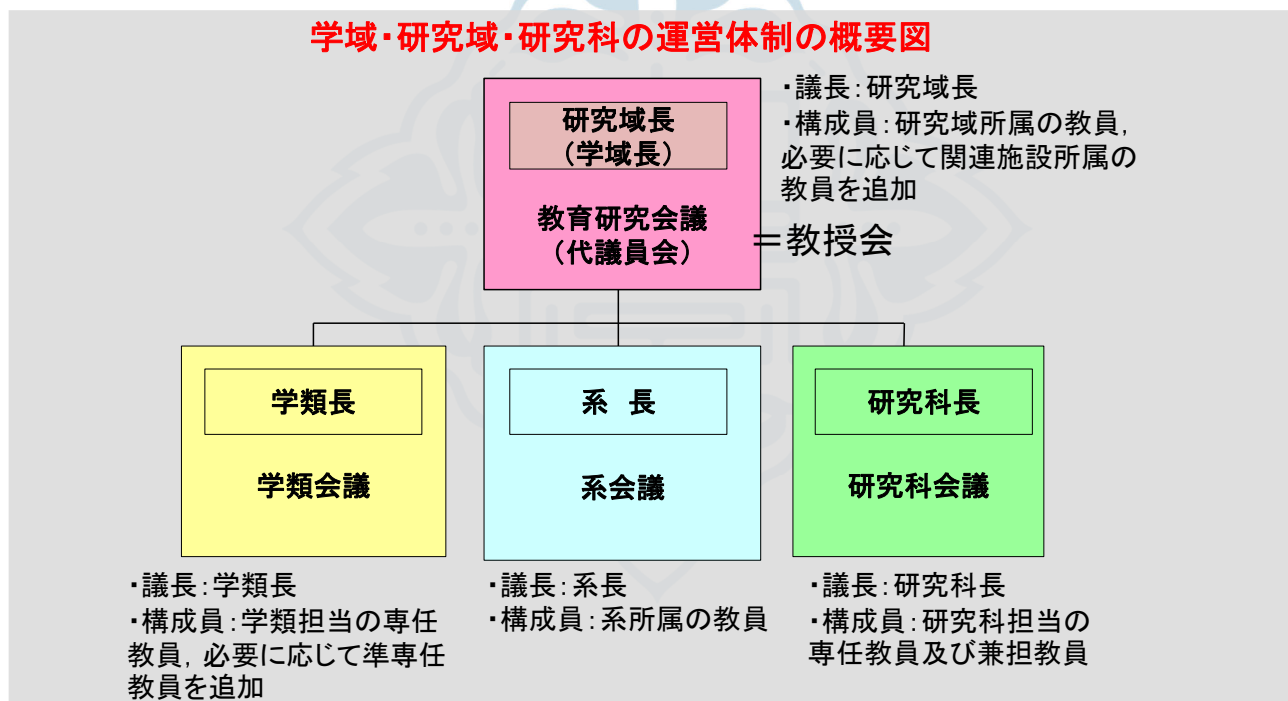


# 1. 学域学類制の構築 (5) 教育・研究活動を支える体制

学域、研究科、研究域における重要事項を、「域」ごとに総括し、研究域長（学域長）を議長とする教育研究会議において審議する

= 「域」として教育・研究活動を総括的に支える体制を担保している

## 学域・研究域・研究科の運営体制の概要図





## 2. 学域学類制の成果と課題 (1) 教育面における成果と課題

### 成果

- 細分化された入学者選抜の単位を整理し、大幅なスリム化を実現
- 「経過選択制」導入により、学生自らの適性と志望を見極める時間的余裕を確保

例えば…

学域	単位数	学類	単位数
文学部	170	人間社会学域	750
人間学科	55	人文学類	145
史学科	50	法学類	170
文学科	65	経済学類	185
		学校教育学類	100
教育学部	195	地域創造学類	80
学校教育教員養成課程	80	国際学類	70
障害児教育教員養成課程	20		
人間環境課程	60		
スポーツ科学課程	35		
法学部	180		
法政学科	180		
経済学部	205		
経済学科	205		

5学科・4課程の入試単位区分を4学類（人文・法・経済・学校教育）に整理するとともに、学際分野の学類（地域創造・国際）を2つ追加

入学志願者は、各学類を構成する複数のコースを含め、「経過選択制」と組み合わせることにより、**将来の進路について、従前より幅広く想定しながら志願先を決めることができるようになった。**

「経過選択制については、学類内のコース配属までに適性や進路について検討する時間的余裕が得られている」  
(※ H24業務実績報告書から引用)

※ 学域学類制についてのアンケートにおいて、経過選択制については好意的な評価が得られた。

17

## 2. 学域学類制の成果と課題 (2) 新学類の成果

### 人間社会学域

#### ■ 地域創造学類

学際的な観点と手法から地域課題に取り組む地域創造学類では、様々地域課題の解決に向けてインターンシップを幅広く実施するとともに、その現場において、学生が地域づくりや街づくりについて施策を提案し、内容に応じて活用・反映される仕組みを整えている。また、地域と連携した「地域往還型プログラム」を構築している。

#### ■ 国際学類

異文化理解と共生を追求する国際学類では、「国際」の観点から幅広い教員（例えば、歴史言語文化学系、法学系、経済学経営学系、外国語教育センター、国際機構 など）が専任教員として教育に参画している。また、キャリア形成を重視した学類独自の海外・国内インターンシップを実施しているほか、留学生とのジョイントクラスを積極的に導入・活用している。

### 理工学域

#### ■ 自然システム学類

生物・人間・物質・地球で形成されるシステムを探求する自然システム学類では、理論だけではなく、実験や演習を重視することを通じ、生物工学やバイオ工学等の理学と工学が融合した分野において、新しい知識・技術の創発につながる教育を行っている。

## 2. 学域学類制の成果と課題

### (3) 教育・研究活動を支える体制の成果と課題

#### ○ 教育組織と研究組織の分離により、学類・研究科に縛られない研究活動を実現

##### 14の「系」以外の研究（教員）組織の例

人間社会研究域	地域政策研究センター (H23.2設置)	地域社会、住民生活及び地域経済上の課題解決及び地域貢献についての調査研究の実施
	国際文化資源学センター (H23.2設置)	「文化資源」の総合的及び多角的な研究とその国際的展開の推進
理工研究域	バイオAFM先端研究センター (H22.10設置)	次世代バイオAFM開発応用に関する研究及びそれを用いた学際研究の実施
	サステナブルエネルギー研究センター (H23.4設置)	持続可能な循環型社会構築に関する研究及びその学際研究の実施
医薬保健研究域	脳・肝臓・フェルミオン研究センター (H23.3設置)	脳・肝を中心に分野を超えた学際的なアプローチによる、成人期・老年期疾患の病因・病態の解明
	健康増進科学センター (H21.4設置, H22.7認定)	肌の健康を中心とし、健康を増進する新しい学問の確立及び国民の健康行動を支援する健康指標の提供

#### ★ 研究力強化と融合研究の進展に向けて研究域・系から研究者を結集

##### 新学術創成研究機構 (H27.4 設置)



金沢大学に優位性のある研究の更なる強化、学問分野融合型研究の一層の進展及び国際頭脳循環の継続的拡充を一体的に推し進めることにより、革新的な研究成果を生み出し、新しい学問分野・学問領域の創成につながる学際的な研究を推進

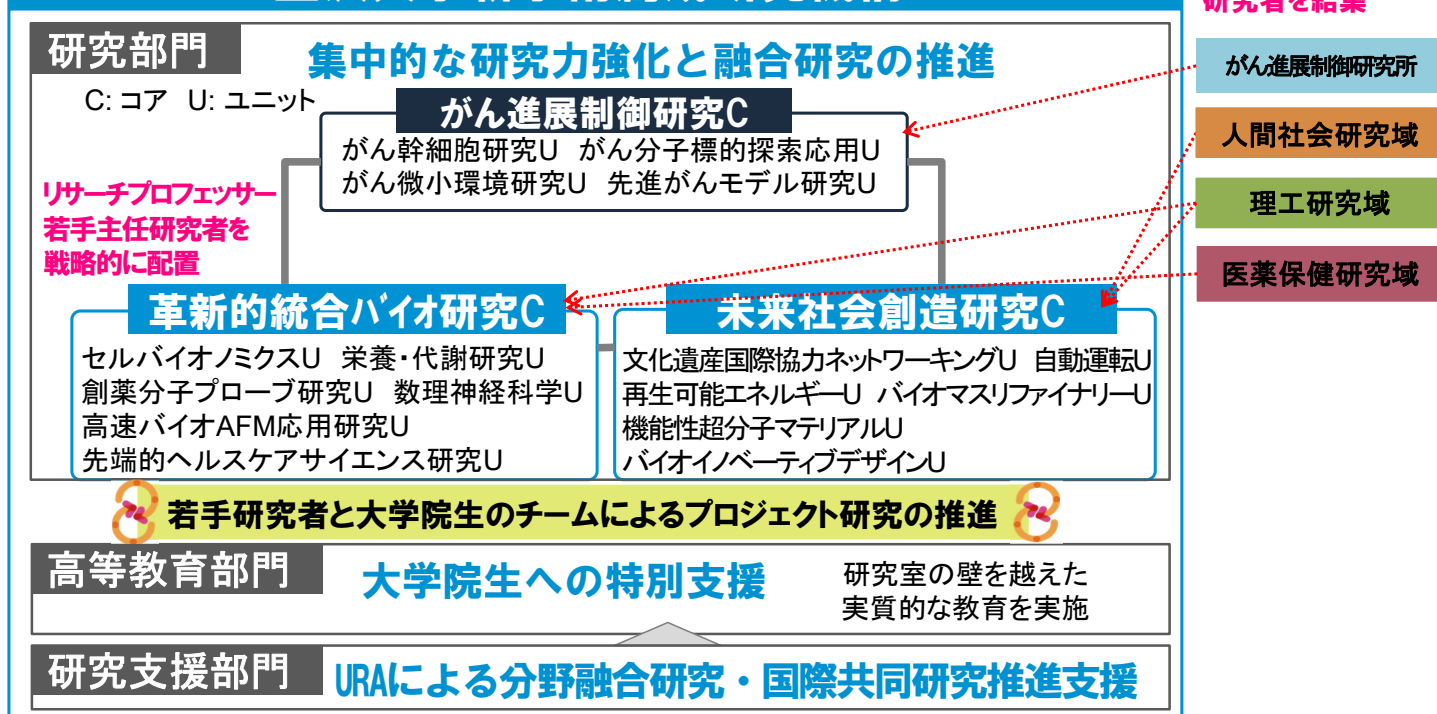
学類・研究科への教育は、これまでどおり実施

19

## 2. 学域学類制の成果と課題

### (3) 教育・研究活動を支える体制の成果と課題

#### 金沢大学新学術創成研究機構



#### 総合大学である金沢大学の強みを活かした分野融合研究の推進

- ・本学に優位性のある分野を土台とした分野横断型研究
- ・若手研究者と大学院生をチームとした育成と徹底した国際化

## 2. 学域学類制の成果と課題

### (3) 教育・研究活動を支える体制の成果と課題

#### 高等学校関係者や入試情報誌に対する情報提供と広報

一般的な学部学科制と比べて、名称や教育システムが異なっていたため、高等学校関係者や、入試情報誌において学域学類制の認知度が十分でなかった。

そのため



進学相談会やオープンキャンパス、高校への出張進学説明会等の機会を活用し、高校生や保護者、教諭に対し、学域学類制について丁寧な説明を継続的に実施

平成26年12月には、本学の教育・研究を紹介する立体的なリーフレットを作成し、北陸圏のみならず、関東圏の高校201校及び予備校130校に配付

また、大学の受験雑誌や受験情報誌に対しても、学域学類制や入試単位についての情報提供と、地道な広報を継続



学域学類制の導入後10年を経て、ようやく本学独自の制度として認知されつつある

21

## 3. 学域学類の再編 2018年～

### 理工学域改組 (2018年4月)

理工と工学の分野融合的な観点を中心とした新たな価値を創出できる人材の育成  
豊かな共生社会を実現するため、地域特性を生かした新産業を創出する人材の育成

#### 定員規模

【現行】入学定員: 589名  
【改組後】入学定員: 614名 (+25名)

改組前		改組後	
入学定員: 84名	数物科学類	入学定員: 84名	数物科学類
入学定員: 81名	物質化学類	入学定員: 81名	物質化学類
入学定員: 140名	機械工学類	入学定員: 100名	機械工学類
入学定員: 108名	電子情報学類	入学定員: 110名	フロンティア工学類
入学定員: 74名	環境デザイン学類	入学定員: 80名	電子情報通信学類
入学定員: 102名	自然システム学類	入学定員: 100名	地球社会基盤学類
		入学定員: 59名	生命理工学類

#### 新たに創設する3学類の概要・養成する人材像

##### フロンティア工学類

先進的かつ安全な近未来人間社会を想像するために、電子情報工学、機械工学、物質工学の知と技を結集して、ナノの世界から宇宙空間までを対象とした様々な未踏領域を切り拓き、工学の飛躍的發展を牽引していくエンジニアや研究者の養成。



コース制は採用せず、特定の工学分野の専門基礎教育(4コアプログラム)を行った後、自身の専門性の構築と、分野融合により工学の未踏領域を開拓する素養を修得させるため、6つのフロンティアプログラムを設置。

##### 生命理工学類

生物学、バイオ工学及びそれらに支援する生命情報学の観点から、生命と生態系システムの構築と作動原理を解き明かす研究者と、水産業を含む様々なバイオ関連産業に貢献する新技術を開発する技術者、及び次世代の人材を育成する教育者を養成。

##### 地球社会基盤学類

地球環境科学及び土木都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識を身に付けた、高度な学理探求を目指す研究者、地球環境の課題解決や人々の豊かな生活と持続的發展を志向する安全で安心な社会の基盤づくりを担う技術者、ならびに次世代の人材育成を担う教育者を養成。

理工学域改組と共に、人間社会学域地域創造学類等のコースを再編

22



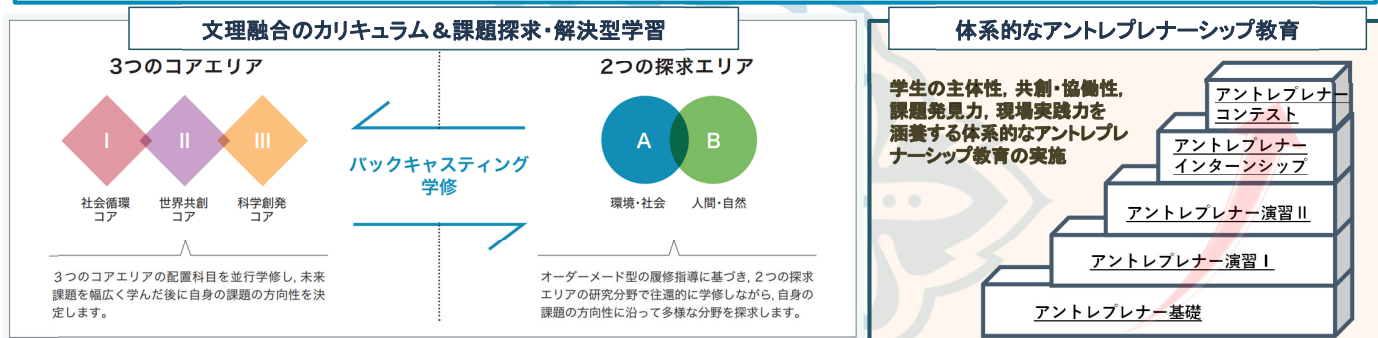
# 4. 新学域・新学類の設置 2021年～

社会的課題の解決に向けた人材育成の加速

**R3新設** 融合学域先導学類

大きく変容する社会において活躍する、学問分野を問わず幅広い知見を備えた「社会変革を先導する中核的リーダー」を育成

偏りのない文理融合型カリキュラムの下、学生自らの志向に合わせて多様な分野の最新の知見や科学技術を広く学ぶとともに、インターンシップやプロジェクト実践型演習を通じ、アントレプレナーシップや実践力を醸成する。



R4以降、観光デザイン学類(仮称)、人間拡張ヒューマンオーグメンテーション(HA)を中心とする学類の設置構想中!

**R3新設** 医薬保健学域医薬科学類

医学・薬学両分野の研究開発ポテンシャルを併せ持ち、世界の最先端医療の研究・開発をリードできるイノベティブな人材の育成

医学と薬学の基礎を学修後、生命医科学、創薬科学の各コースにおいて深い専門性をシームレスに学ぶとともに、先端的な医薬科学研究に取り組み、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる研究基盤力を身に付ける。



# 4. 新学域・新学類の設置 2021年～



## 社会の変化に対応した教育組織改革を進めています

-実績-

- ・ R3.4 文理医融合教育の強化 - 融合学域先導学類の新設
- ・ R4.4 融合学域観光デザイン学類 新設
- ・ R5.2 教学マネジメントの強化 - 全学域・研究科を対象に「3つのポリシーの再整備」
- ・ R5.4 融合学域スマート創成科学類 新設



-Next Stage-

・ R6年度から学士課程入学定員 110名増予定

**融合学域観光デザイン学類**  
入学定員20名 → 55名 (35名増予定)

**融合学域スマート創成科学類**  
入学定員20名 → 55名 (35名増予定)

**理工学域電子情報通信学類**  
入学定員70名 → 116名 (40名増予定)

・ R6年度入学者選抜試験 (理工学域)  
**女子枠特別入試** 導入  
(R9年度の女子比率目標値: 約20%)

デジタル人材選抜 及び 女子枠特別入試 を導入  
令和6年度入学者選抜(特別選抜) (令和5年度実施) から



9月23日(土) キャンパスツアーを開催開催し、約200名の高校生が参加しました  
実施内容: 学生との懇談会、研究紹介、研究室見学



# 5. 文理融合教育とSTEAM教育の全学展開へ 2021年～

**R2年度  
採択!**

文部科学省  
**知識集約型社会を支える人材育成事業**

Society5.0時代の到来に向け、全学横断的な教育改善の循環を生み出すシステムの、学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応し得る能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とする。

## 融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ 社会変革先導人材育成プログラム

融合学域の教育を他の学域へ展開するとともに、リベラルアーツ教育やSTEAM教育の強化等4つの柱による**全学的な教育改革**を実現!!

### 養成する資質

#### トランスディシプリンに基づく俯瞰力

複数の学術分野に跨がる専門知を活用し、社会課題を認識しながらその本質を科学的に解明する力。

#### 現場でチームを統率できる提案力・実践力

チームメンバーの専門性・役割を考慮しながら、効果的な解決策を提示し、それを実行に移していく力。

#### 多様な未来社会を先導的に生き抜く人間力

社会の多様性と科学・技術の進化を理解し、課題解決に伴う困難を克服しながら、社会変革に挑戦し続ける力。

幅広い教養と人間力を横軸に  
深い専門性を縦軸に取る



## T字型社会変革人材の育成

①②合わせて80名以上の学生が入学・受講

①

文理融合新学域  
融合学域  
先導学類  
の設置

②

先導STEAM  
人材育成  
プログラムの  
開講

④

教学マネジメントセンターの設置

全学士課程学生が対象

③

リベラルアーツ教育の大幅拡充と  
STEAM教育の全学必修化

これまでの学域GS専門科目(必修2単位)

科目を拡充し、必修6~8単位に

これまでの共通教育GS科目(5群30科目)

STEAM教育重視の  
共通教育GS科目第6群を新設